

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	アスラボふくい			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日 ～ 2025年 12月 18日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	15
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日 ～ 2025年 12月 15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 16日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小学校高学年・中学生を中心の小集団活動を行い、他者の行動や言動を見て自己を振り返る機会が持てる。	小集団活動を作るための話し合いの場を設けて、1人1人が発言の機会や役割を持って参加できるようにしている。ルールを明確に示すことで、ルールを守ること・守れていない子の行動に利用者自身が気がつくことができ、自分の行動についても振り返ることができるよう声かけしている。	季節に応じた活動の立案や自分の「やってみたい」をみんなでできるように発案、計画できるような取り組みを行う。利用者自身が自分について振り返る時間を設けて、自分の得意なこと・苦手なことなど自分について知ることができる取り組み。子どもたちの主体性を活かした活動作りができるように進め方について職員が学ぶ機会を持つ。
2	個々の特性やペースに応じた学習の進め方について支援を行っていること。	利用者自身と話をする時間をもち、本人が苦手に思っていること・得意なことを理解し、それに応じて学習の進め方を相談しながら進めていく。検査結果やライフスキルの結果から、本人の特性に合わせた支援を行う。	職員が個々の障がい特性について理解を深める。また特性や利用者のストレングスに応じた支援ができるよう、支援の方法について学ぶ機会を持つことで、支援の質の向上を目指していく。
3	調べ活動を通じて、自分の将来について見通しを持ち、利用者が主体的に行動できるきっかけ作りをしている。	高校や大学・職業について知る機会を持ち、学習に取り組むきっかけとして将来について見通しを持てるようにしている。見通しを持つことで「今、なぜやらないといけないか」に利用者自身が気がつき、主体的に行動できるように声かけをしている。	ICTやチャットGPTなどが活用できるように、職員も知識をつけるため学ぶ機会を設けていく。職員が、高校や大学に進学する際に活用できる合理的配慮や就職の際に活用できる制度や福祉サービスなどについて知る機会を持つ。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	体を動かす活動ができない。	建物のスペース的に運動を取り入れた活動ができない。また外にも活動できるスペースを確保できない。	外部の施設（体育館など）を利用した活動を取り入れる。体操やダンスなど簡単な運動を活動に取り入れていく。
2	送迎がないため通所する手段を確保すること	保護者が送迎しやすい時間帯に事業所が開所していないこと。送迎の際に学校との情報交換ができないため、学校での様子が分かりにくい。	事業所の営業時間・サービス提供時間について見直しを行う。その都度保護者にアンケートなどで聞き取りを行い、ニーズを把握する。支援会議に積極的に参加し、学校の様子や学習の進捗などについて知る機会を設けていく。
3			